



昭和10年(1935)11月新学舎竣工記念絵葉書
当初、1号館時計台には正面と背面に向かいあう窓があり、窓越しに建物の向こう側が透けて見えていた。2002年に国の登録有形文化財に登録された。

大学の知を発掘!
004

伝統とモダニズムの融合した登録文化財・1号館

大阪市立大学1号館は1934年に大阪商科大学学部本館として完成した。大阪商科大学は1928年に日本初の市立大学として設立され、新しいキャンパスの創設が決まった。1号館は、現在も旧教養地区に建つ予科校舎(現2号館)や体育館(現第1体育館)に次いで、図書館・研究室(現学生サポートセンター)と同年に、本館地区の要として竣工した。

建築史的な意義を簡潔に述べたい。それは(1)第二次世界大戦以前の大学の校舎に求められた威厳と、(2)戦後に一般的となる過去の建築に頼らない意匠の両方を備える、(3)昭和戦前期にしかありなえい姿をもつ、全国的にもほぼ唯一の現存する大学校舎群であることだ。

(1)の威厳を時計塔が代表する。東大・京大・一橋大などの戦前に端を発する大学だけが、中央に塔がそびえ、内部の正面に大階段があり、左右対称の意匠を備えた校舎をもつ。手前の広場と中心軸が通るので、塔の象徴性も左右対称形が全体を律する感もいっそう強い。キャンパスの新設という機を生かして、公に貢献する人材たんとするピリッとした責任感を、通う者や訪れる者に感

じさせる。そんな戦前らしい校舎が実現されている。

(2)を建築史で一般に「モダニズム」とよぶ。歴史的な建築に根ざした装飾が1号館には見られない。この点で、他大学の戦前の校舎とははっきり区別される。代わりに幾何学的な直線と円で全体を整えている。見所は数え切れないが、例えば正面の外観を例にとれば、中央付近は垂直線を基調として塔に対応する伸びやかさを作り、半円形の突出部から外側は水平線に重きを置いて側面までの流れを生む。しかも、学生サポートセンターのデザインとも呼応する。新設キャンパス全体で、古いスタイルに留まらない斬新なデザインを打ち出している。

(3)で述べたように、戦後を先取りした(2)と戦後に消える(1)を奇跡的にあわせもつ。その可能性のある時代は昭和戦前期だけだが、実際にはほぼ類例がない。当時の大阪市長 関一が述べた「国立大学の『コピー』であつてもならぬ」という言葉の具現化である。

1号館は、大阪の独立の気概と、大きな視野に立って高等教育の革新がめざされたことを示す、何より本学が認識すべき重要な資産だろう。(工学研究科 倉方俊輔)



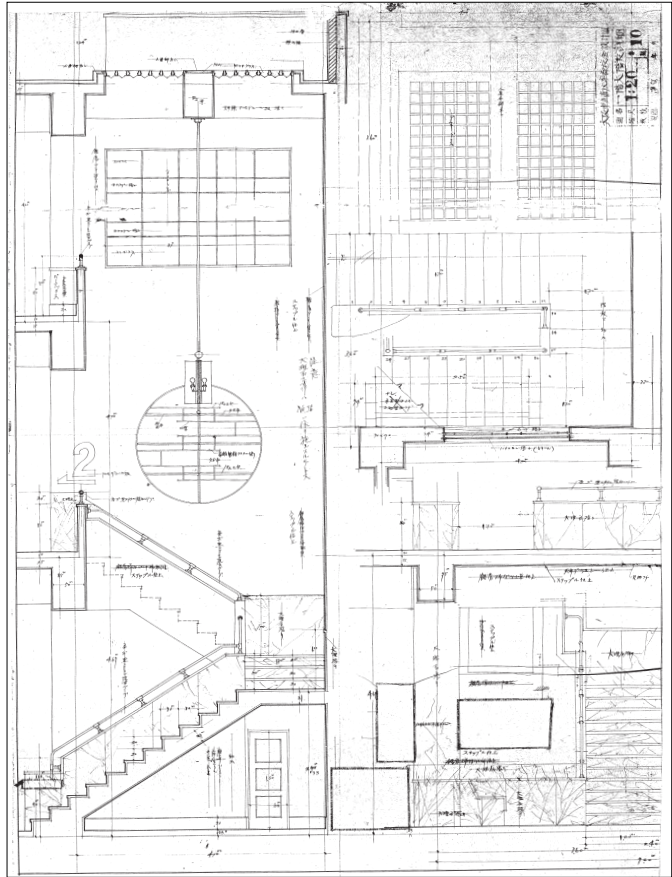
140周年展と大学史資料館(大学博物館)
実現にむけてご寄附のお願い →大阪市立大学夢基金
お申込み時にTOP1「創立140周年記念事業」を選択してください
【お問い合わせ】大学サポーター交流室(夢基金担当) TEL06-6605-3415
<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/xbtf2s>

編集発行
(仮称)大学史資料館設立準備委員会
学術情報総合センター6階 大学史資料室内
TEL: 06-6605-3261

1号館をはじめ、サポートセンター・旧書庫・2号館・体育館にみる幾何学による美しさ



1号館中央の階段と吹抜 上部にはトップライトがある



吹抜に面した丸窓や照明のデザインが描かれた設計図



サポートセンターの円形の部屋のあるコーナー部



1号館の円形バルコニー

様々な場所でみつけられる丸窓と列柱



旧書庫の丸窓



体育館の列柱と2号館の丸窓



1号館の列柱



準備室だより

◆来年の140周年展にむけて、文系(大学史・文系資料)・理系(理系資料・古人骨)、展示設計ワーキンググループで、展示計画を固めつつあります。

◆学内の様々な学術資料などを紹介するこの「NEWS LETTER」については、取り上げる題材について計画を立て、月1号を目標に刊行していく予定です。

◆創立140周年記念特設サイトのなかに、【140周年展+大学史資料館(大学博物館)特設サイト】を設ける準備を進めており、近日中に公開予定です。140周年展、および大学史資料館の準備状況の報告や、NEWS LETTERなどを順次掲載していきます。

(仮称)「大学史資料館」設立準備委員会からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→学術情報総合センター6階 大学史資料室内 TEL:06-6605-3261